

4年の復習①.....	5
4年の復習②.....	6
4年の復習③.....	7
4年の復習④.....	8
<b>第1章 日本の国土.....</b>	<b>9～28</b>
第1課 世界と日本の国土.....	10
第2課 くらしと地形.....	14
第3課 くらしと気候.....	18
まとめの問題 第1章のまとめ.....	22
ジャンプアップ1.....	26
<b>第2章 日本の農業.....</b>	<b>29～54</b>
第4課 米づくりと生産のさかんな地域.....	30
第5課 米づくりのくふうとこれから.....	34
第6課 野菜・くだもの・畜産.....	38
第7課 いも類・豆類・工芸作物.....	42
まとめの問題 第2章のまとめ①.....	46
まとめの問題 第2章のまとめ②.....	48
ジャンプアップ2.....	52
<b>第3章 日本の水産業と食料生産.....</b>	<b>55～74</b>
第8課 とる漁業.....	56
第9課 つくり育てる漁業.....	60
第10課 これからの食料生産.....	64
まとめの問題 第3章のまとめ.....	68
ジャンプアップ3.....	72
<b>第4章 日本の工業.....</b>	<b>75～94</b>
第11課 自動車をつくる工業.....	76
第12課 工業のようす.....	80
第13課 工業のさかんな地域.....	84
まとめの問題 第4章のまとめ.....	88
ジャンプアップ4.....	92
<b>第5章 運輸と貿易.....</b>	<b>95～110</b>
第14課 運輸.....	96
第15課 貿易.....	100
まとめの問題 第5章のまとめ.....	104
ジャンプアップ5.....	108
<b>第6章 くらしを支える情報.....</b>	<b>111～126</b>
第16課 情報を伝える.....	112
第17課 情報を役立てる.....	116
まとめの問題 第6章のまとめ.....	120
ジャンプアップ6.....	124
<b>第7章 自然環境を守る.....</b>	<b>127～146</b>
第18課 災害と自然を守る運動.....	128
第19課 くらしと森林.....	132
第20課 公害と環境問題.....	136
まとめの問題 第7章のまとめ.....	140
ジャンプアップ7.....	144
<b>付録</b>	
日本の環境保全.....	147
世界のすがた.....	148

# 10 これからの食料生産

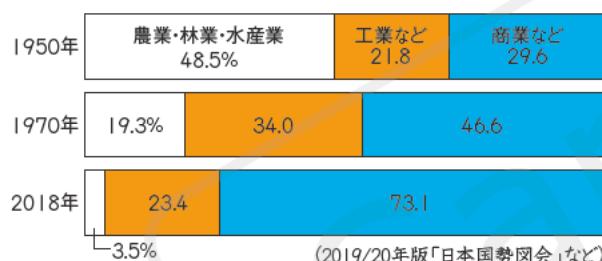
## 要点整理1 日本の食料生産と食料の輸入

**見方・考え方**  
各國と日本の農業を比べる。

日本の農業や水産業、食料の輸入量を確認してみましょう。

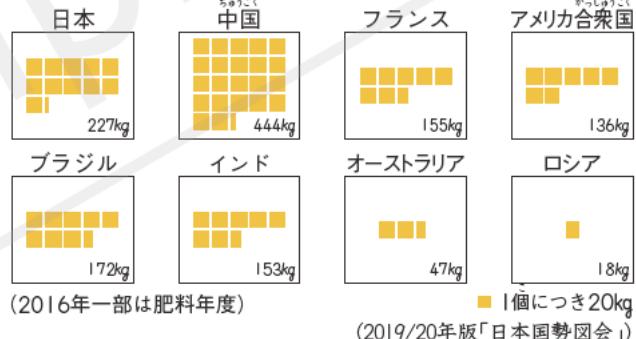
- (1) おとろえる農業・水産業…日本の食料生産を支えている農業・水産業で働く人の数が減っています。若い人が少なくなり、働く人の高齢化も進んでいます。 →①
- (2) 増える食料の輸入…外国で生産された食料の輸入が増えています。輸入された食料品は、国内の生産をおぎなっています。輸入された食料によって、日本人の食生活は豊かになりました。 →②
- ① 安い外国産の食料…広い耕地で大型機械を使い、人手をかけずに効率よく生産している外国の農産物の値段は、せまい耕地で人手や肥料を多く使う日本の農産物よりも安くなります。 →③
- ② 食料の輸入自由化…日本は、国内の農産物と農家を守るために、外国からの食料輸入を制限していました。しかし、農産物を自由に売りたいと要求する国が出てきたので、農産物の輸入制限をゆるめ、輸入自由化をすすめてきました。なぜ守る必要があるのでしょうか？

### ①日本の産業別人口の割合の移り変わり

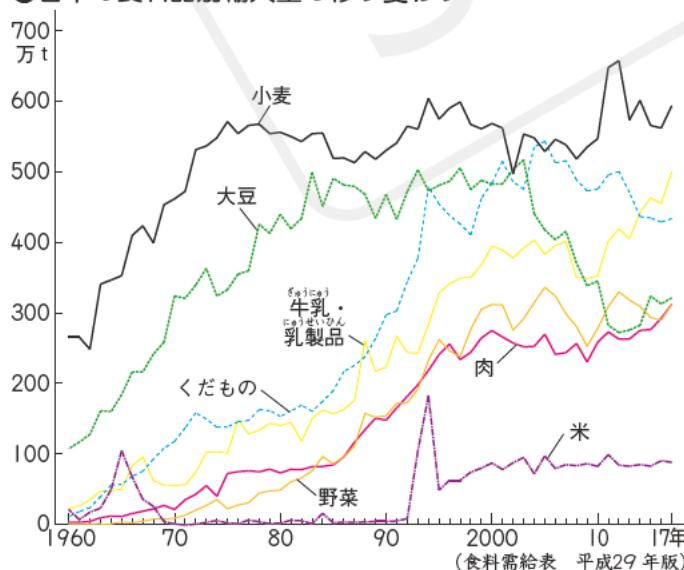


### ③おもな国々の農業の特徴

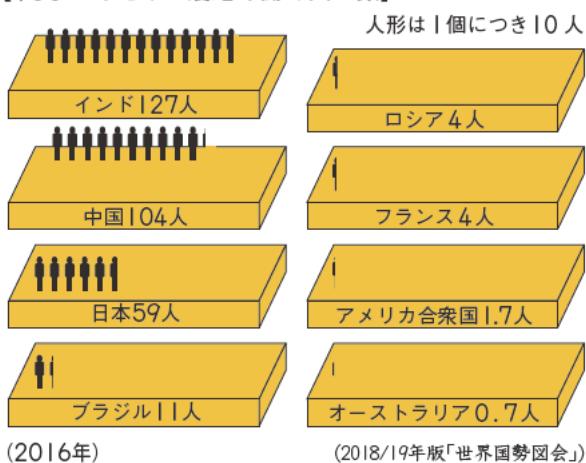
#### 【1haあたりの肥料の使用量】



### ②日本の食料品別輸入量の移りわり



#### 【100haあたりの農地で働く人の数】



### まとめ

- 日本の農業・水産業は、働く人の数の減少・高齢化が進んでいる。
- 食料の輸入自由化の動きが進み、外国から安い食料がたくさん輸入されている。

## 要点整理2 食料自給率と食料輸入の問題

**見方・考え方**  
食料を輸出する国の立場で考える。

日本の食料自給率や食料輸入の問題点を考えてみましょう。

- (1) 食料自給率の低下…パンの原料となる小麦や、日本の昔からの食料であるみそやとうふの原料となる大豆は、大部分を輸入しています。特に、アメリカ合衆国からの輸入が最多です。 →④・⑤  
■ 食料自給率…国内で消費された食料の量のうちで、国内で生産された量の割合を表したもの。
- (2) 食料輸入の問題点…食料の多くを輸入にたよると、世界の農産物が不作のときや、輸入先の国で災害が起きたときなどに、輸入できなくなるおそれがあります。また、輸入される農産物は安全性が心配です。このほか、日本に輸出するえびを育てる養殖場をつくるため、東南アジアでマングローブ林や熱帯雨林などの自然環境が破壊されています。  
思考 マングローブ林は入り江や河口にできる森林で魚たちのよいすみになります。

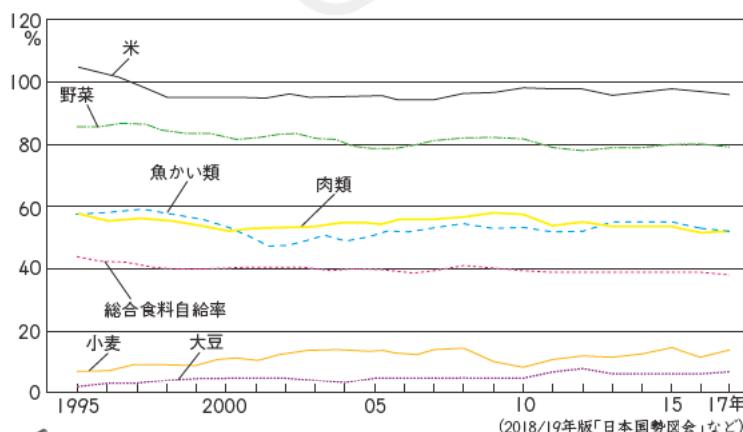
## 要点整理3 これからの食料生産

**見方・考え方**  
食の安心への取り組みを調べる

これからの食料生産で大切なことは何でしょう。

- (1) 食品の安全性を保つ…いつ、どこで、どのような原料からつくられた食品なのかの表示がされるようになっています。また、農産物の産地表示が義務づけられ、農産物の生産から運ばれるまでを消費者に伝えるトレーサビリティというしくみも取り入れられています。
- (2) 環境にやさしい食料生産…農薬や化学肥料を使用した食料生産は、食料の安全性の問題や環境汚染の問題を引き起こしています。品質のよい食料を生産するために、各地で環境保全の取り組みが行われています。  
トレー サビリティを取り入れたのはなぜでしょう？
- (3) 世界の食料を確保するために…世界では、人口は年々増え続けている一方、耕地面積にはあまり変化はありません。そのため、食料が足りなくなってしまうおそれがあります。そのため、日本の農業生産の技術を外国へ伝えることで、食料生産を高めようとする動きもあります。
- (4) 食料自給率を高める取り組み…輸入された食料にたよらないように、農産物のほか、魚介類、畜産物もふくめた地産地消の取り組みなどが進められています。

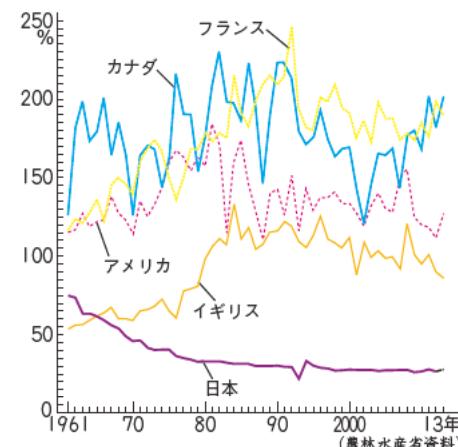
### ④日本のおもな食料自給率の移り変わり



**まとめ**

- ・日本の食料自給率は、世界のおもな国と比べると低く、多くの食料を輸入にたよっている。
- ・これからの食料生産は、安心できる品質と安定したきょう給が求められている。

### ⑤日本とおもな国の穀物自給率の移り変わり



**要点整理2・3 の確認問題へ!**

# 確 認 問 題

 **要点整理1** で学んだことを確認しよう！

- ① 日本の食料生産を支える農業・水産業で働く人には、わかい人が少なくなり、\_\_\_\_\_化が進んでいます。
- ② 国内の生産をおぎなうため、外国で生産された食料の輸入は\_\_\_\_\_ています。
- ③ 広い耕地で大型機械を使い、人手をかけずに効率よく生産している外国産の農産物の値段は、国内の農産物の値段よりも\_\_\_\_\_くなっています。
- ④ ②の原因としてどのようなことが考えられますか。かんたんに答えましょう。  
政府が外国からの食料輸入制限を\_\_\_\_\_、輸入\_\_\_\_\_化をすすめたことが原因の一つとして考えられます。

 **要点整理2** で学んだことを確認しよう！

- ⑤ 国内で消費された食料の量のうち、国内で生産された量の割合を表したもの食料\_\_\_\_\_といいます。
- ⑥ 日本の主食でもあり、日本国内でほぼ自給できている穀物は\_\_\_\_\_です。
- ⑦ パンなどの原料となる穀物の\_\_\_\_\_は、多くを輸入にたよっています。
- ⑧ みそやとうふなどの原料となる穀物の\_\_\_\_\_は、多くを輸入にたよっています。
- ⑨ 東南アジアでは、日本に輸出する\_\_\_\_\_を育てるために、マングローブ林や熱帯雨林などの自然環境が破かいされるという問題が起こっています。

 **要点整理3** で学んだことを確認しよう！

- ⑩ 食品の安全性を保つために、農産物には、どこでつくられたかを示す\_\_\_\_\_表示が義務づけられています。
- ⑪ 農産物の生産から運ばれるまでを消費者に伝えるしくみを\_\_\_\_\_といいます。
- ⑫ 農薬や化学肥料を使用した食料生産は、食の安全の問題だけではなく、\_\_\_\_\_汚染の問題も引き起こします。
- ⑬ 世界の人口は年々増え続けていますが、耕地面積はあまり変化がないため、食料が\_\_\_\_\_おそれがあります。
- ⑭ 日本は、これから食料自給率を高めるためにどのような取り組みを行っていますか。かんたんに答えましょう。  
外国から\_\_\_\_\_された食物にたよるばかりではなく、地元でとれた農産物や魚かい類、畜産物を地元で消費する\_\_\_\_\_の取り組みなどを行っています。

# 練習問題



## 1 食料自給率と食料輸入の問題 次の問い合わせに答えなさい。

(1) 日本で食料の輸入が増えてきた理由にあてはまるものを、次のア～エから2つ選びなさい。

- ア 日本で生産される米の生産量が減り、食料が足りなくなつた。
- イ 外国の農産物は、日本で生産される農産物より値段が安い。
- ウ 日本で生産される農産物の安全性に問題がある。
- エ 政府が農産物の輸入制限をゆるめ、輸入自由化を進めてきた。

(2) 右のグラフは、おもな食料自給率を示しています。グラフ中の①・②の農産物にあてはまるものを、次のア～エから1つずつ選びなさい。

ア 大豆 イ 乳製品  
ウ 米 エ くだもの

(2019/20年版「日本国勢団会」(ほか))

(1)	
(2)	②
(3)	①

(3) 食料を輸入にたよることの問題点を、次のア～オから2つ選びなさい。

- ア 日本から食料を輸出できなくなる。
- イ 日本の農産物の品質がだんだん悪くなる。
- ウ 輸入される食料が安全かどうか問題がある。
- エ 外国で不作のときなどに、農産物を輸入できなくなる。
- オ 輸入される食料の値段が高いのが問題である。

## 2 これからの食料生産 次の文章を読んで、あの問い合わせに答えなさい。

食品の安全性を保つため、農産物がいつ、どこでつくられたのかを表示する(①)が義務づけられ、②農産物を生産してから運ばれるまでを、消費者に伝えるしくみも取り入れられるようになっています。また、品質のよい食料を生産するため、③環境を保護して、人間や動物などが生活しやすいようにする取りくみや、④食料自給率を高めるための取りくみも、各地で行われています。

(1)	
(2)	
(3)	
(4)	

(1) (①)にあてはまる言葉を、次のア～エから1つ選びなさい。

- ア 有機栽培 イ 契約栽培  
ウ 産地表示 エ オーナー制度

(2) ②線部①のしくみを何といいますか。

(3) ③線部②の取りくみを何といいますか。

(4) ④線部③の取りくみの1つに、地域で生産したものを地域で消費する取りくみがあります。この取りくみを何といいますか。

# まとめの問題 第3章のまとめ

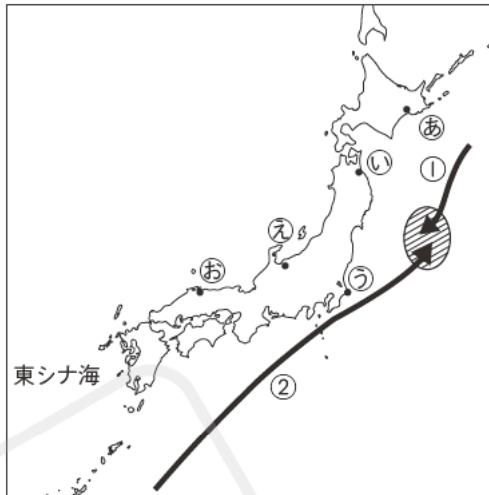
**1** 日本のおもな漁場について、右の地図を見て、次の問いに答えなさい。

- (1) 地図中の①・②は、日本の近海を流れる海流を示しています。①・②にあてはまる海流名を、次のア～エから一つずつ選びなさい。

ア 千島海流(親潮)  
ウ 対馬海流

イ リマン海流  
エ 日本海流(黒潮)

①	②
---	---



- (2) 地図中の東シナ海などには、水深が約200mまでのけいしゃのゆるやかな海底が広がり、よい漁場となっています。このような海底のことを何といいますか。

--

- (3) 地図中の○で示した海域がよい漁場となっているのは、寒流と暖流がぶつかるところにあたり、プランクトンが多く発生するからです。この寒流と暖流がぶつかるところを何といいますか。

--

- (4) 地図中のⒶ～Ⓑは、水あげ量の多い日本の代表的な漁港です。名前との組み合わせが正しいものを、次のア～オからすべて選びなさい。

ア Ⓐ：釧路港  
エ Ⓒ：焼津港

イ Ⓑ：石巻港  
オ Ⓓ：八戸港

ウ Ⓒ：銚子港

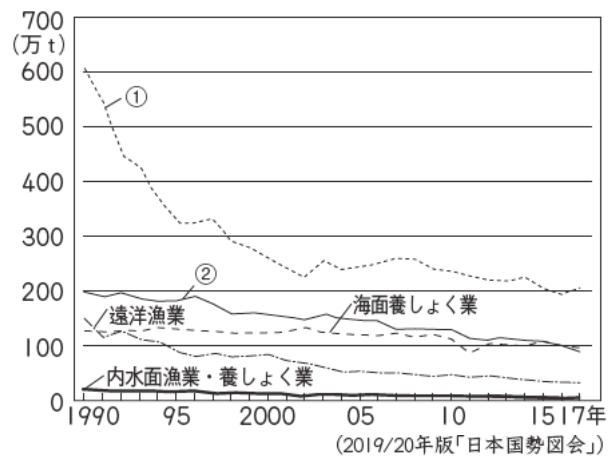
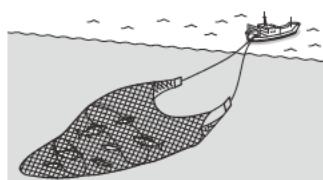
--

**2** とる漁業について、右のグラフを見て、次の問いに答えなさい。

- (1) グラフ中の①は数日がかりで行われる漁業、②は日帰りで行われる漁業です。それぞれの漁業を何といいますか。

①	
②	

- (2) グラフ中の遠洋漁業などで行われている、次の図の漁法を何といいますか。



**3** つくり育てる漁業と水産業の変化について、次の文章を読んで、あとの問い合わせに答えなさい。

日本の漁業は、魚のとりすぎや、各国が沿岸から(④)海里内の外国船の漁かくを制限するようになったことなどから、だいに漁かく量が減ってきています。そこで、とる漁業から、つくり育てる漁業が重要になってきました。つくり育てる漁業には、(⑤)養しょく業と、稚魚や稚貝を海や川に放流して、自然の中で育ててから漁かくする(⑥)漁業があります。また、日本の漁かく量が減る一方で、外国からの(⑦)水産物の輸入が増えています。

- (1) (④)にあてはまる数字を、次のア～エから1つ選びなさい。

ア 100 イ 150 ウ 200 エ 300

- (2) 線部(⑤)「養しょく業」とありますが、次の①～③でさかんに養しょくされているものを、あとのア～オからそれぞれ1つずつ選びなさい。

① 浜名湖周辺(静岡県) ② 広島湾(広島県) ③ 陸奥湾(青森県)

ア はまち イ うなぎ ウ ほたて貝 エ かき オ 真珠

①  ②  ③

- (3) (⑦)にあてはまる言葉を書きなさい。

- (4) 線部(⑦)「水産物の輸入」とありますが、日本が輸入している金額が大きい水産物とその輸入先の組み合わせが正しいものを、次のア～エからすべて選びなさい。

ア まぐろ：モロッコ・モーリタニア・中国 イ えび：ベトナム・インド・インドネシア  
ウ さけ・ます：中国・台湾 エ かに：ロシア・カナダ・アメリカ

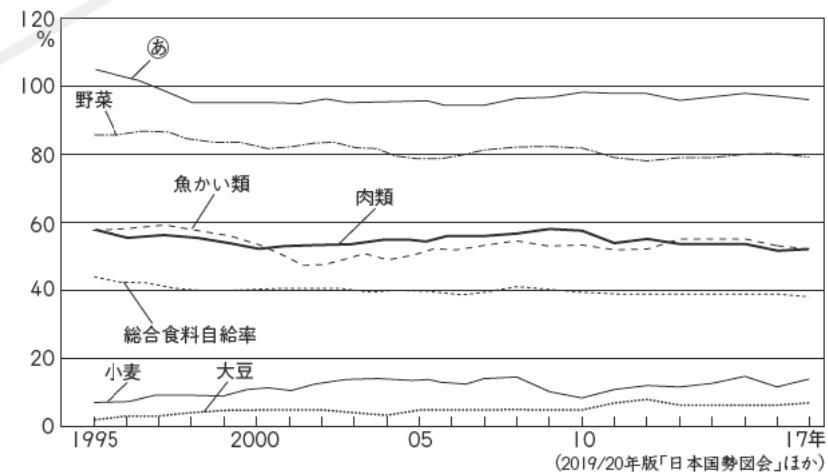
**4** これからの食料生産について、右のグラフを見て、次の問い合わせに答えなさい。

- (1) 自給率が最も高い、グラフ中の④にあてはまる農産物を書きなさい。

- (2) 自給率の低い小麦と大豆を、日本が最も多く輸入している国を、次のア～エから1つ選びなさい。

ア チリ イ サウジアラビア  
ウ ケニア エ アメリカ合衆国

日本のおもな食料自給率の移り変わり



- (3) 小麦や大豆の自給率が低い理由にあてはまるものを、次のア～エからすべて選びなさい。

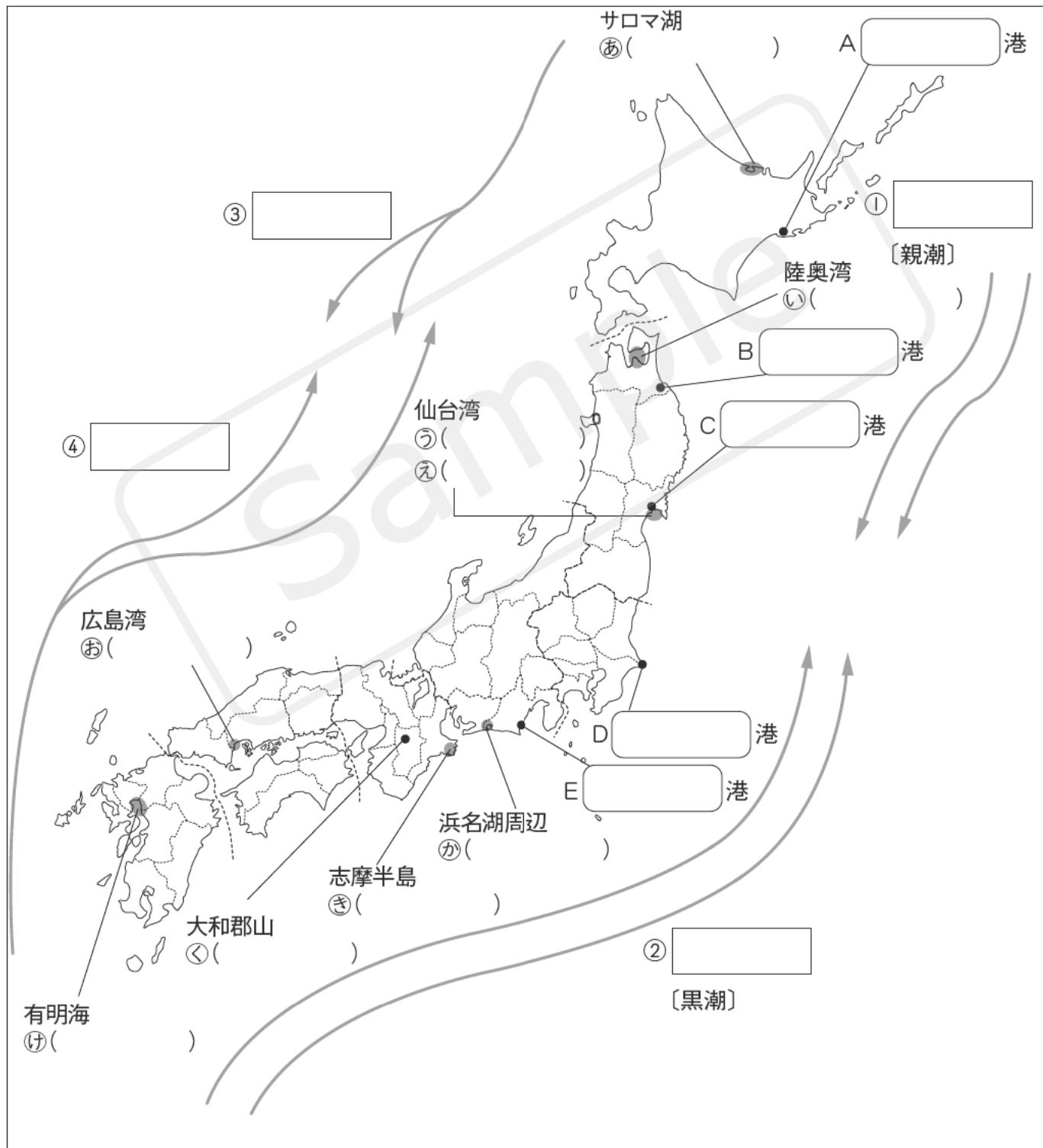
ア 日本の料理ではあまり使われない。 イ 国内の生産量が少ない。  
ウ 外国産のものが日本産のものより安い。 エ 日本から輸出される量が多い。

# 地図を活用しよう

- ◆ 地図中の①～④には、海流の名前を、A～Eには、おもな漁港の名前を書きましょう。
- ◆ 地図中のあ～けには、養殖よくされている水産物の名前を、次の中からそれぞれ選んで、書きましょう。同じものを何度も使ってもかまいません。

のり かき 真珠 ほたて貝 金魚 うなぎ

**作図** 地図中に、①と②の海流がぶつかる潮目を  で書きこみましょう。



# 資料をもとに考え、書いてみよう！

□(1) 表中のア～エは、それぞれ右の地図中の1～4のいずれかの県を示しています。1の県にあてはまるものを選び、記号で答えなさい。

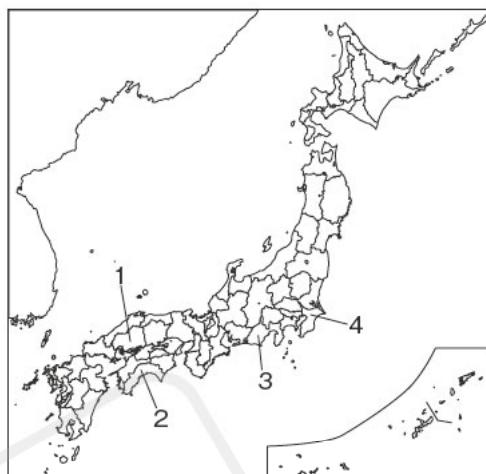
表

	海面漁業漁かく量(t)	海面養しょく業漁かく量(t)
ア	65,625	18,225
イ	120,101	8,527
ウ	202,227	2,723
エ	16,106	107,243

(2017年)

(平成29年版 漁業・養殖業生産統計)

地図



1～4の県のうち、かきの養しょくがさかんな県が  
1つあるよ！

□(2) 日本は、国土の面積に対して200海里水域の面積が広い国です。その理由を、資料1と資料2をもとにして、日本の国土の特ちょうと関連づけて、かんたんに書きなさい。

## 資料1 200海里水域と国土の面積の順位

国名	200海里水域の面積の順位	国土の面積の順位
アメリカ合衆国	762万km <sup>2</sup> 1位	3位
オーストラリア	701万km <sup>2</sup> 2位	6位
インドネシア	541万km <sup>2</sup> 3位	15位
ニュージーランド	483万km <sup>2</sup> 4位	76位
カナダ	470万km <sup>2</sup> 5位	2位
日本	447万km <sup>2</sup> 6位	62位

(海上保安庁資料)

## 資料2 日本周辺図



資料2の200海里水域の範囲に注目しよう！小さな島のまわりはどうなっているかな？

□(3) 資料を見て、肉用牛に耳標をつける理由を、消費者の立場からかんたんに書きなさい。



どこでどのように育てられた牛か知ることができると、消費者はどんな気持ちになるだろう？

右の写真のように、この牧場では、牛一頭一頭にすべて番号をつけて管理しています。耳についているのがその番号を記した「耳標」です。こうすることで、それぞれの成長のようすや健康状態をきめ細かくチェックできます。消費者は、この番号からさかのぼって、インターネットを通じて牛がどこでどのように育てられたかをることができます。



## ジャンプアツフ。③

### ！日本の自給率を上げるために取り組みを知る！



日本の食料自給率は、世界的に見ても低いことは勉強しましたね。一方で、自給率を上げるために取り組みが行われています！資料から内容をつかみましょう！

授業で日本の食料自給率について学んだたろうさんとはなこさんは、さらにいくつかの資料を集め、それについて会話をしています。これを読んで、あの問い合わせに答えましょう。

資料1 日本の食料自給率

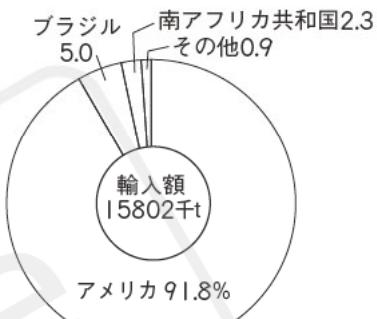
品目	1975年	1985年	1995年	2005年	2015年	2017年
米	110	107	104	95	98	96
小麦	4	14	7	14	15	14
野菜	99	95	85	79	80	79
果実	84	77	49	41	41	39
肉類	77 (16)	81 (13)	57 (8)	54 (8)	54 (9)	52 (8)
鶏卵	97 (13)	98 (10)	96 (10)	94 (11)	96 (13)	96 (12)
魚かい類	99	93	57	51	55	52
飼料	34	27	26	25	28	26

(%) (農林水産省資料)

資料2 世界のとうもろこし輸入 日本のとうもろこし輸入相手国

国名	2015年	2016年
日本	14708	15342
メキシコ	12145	14106
韓国	10350	9790
世界計	144849	148544

(千t) (2018/19年版「世界国勢団会」)



(2018年) (2019/20年版「日本国勢団会」)

たろう：「はなこさん、何を見ているの？」

はなこ：「授業で食料自給率について習ったから、もう少し自分で調べてみようと思って資料を集めただけど、資料1を見ると肉や卵の自給率には2種類あるわ。( )の中の数字は何かしら。」

たろう：「それは、飼料自給率を考えた上の自給率だよ。牛や豚、肉用鶏、採卵鶏などを育てるには、えさとなる飼料が必要だからね。」

はなこ：「えっ。じゃあ、卵の自給率ってほぼ100%に近いって思っていたけれど、飼料自給率をふくめると10%ちょっとまで下がってしまうのね。なぜこんなに下がってしまうのかしら。」

たろう：「それは□からだよ。例えば、資料2からわかるように、日本は多くのとうもろこしを輸入していて、その9割くらいをアメリカ合衆国から輸入しているよ。輸入とうもろこしには人間が食べる分もふくまれるけれど、その多くは飼料に使われるんだ。」

はなこ：「飼料自給率を考えると大きく自給率が下がってしまうのは、<sup>①</sup>色々問題がありそうね。」

(1) 会話文中的□にあてはまる内容を、「飼料」・「輸入」ということばを使って答えましょう。

( )

(2) 下線部①に関連して、食の安定の面から考えられる問題を、資料2の内容をふまえて説明しましょう。

( )

たろう：「一方で、飼料自給率を上げるための取り組みがいくつか進められているよ。例えば飼料用米の栽培だね。資料3からわかるように、実は今、②飼料用米の生産量が大きく増えているんだ。」

はなこ：「本当ね。授業で見た資料4もあわせて考えると、飼料用米の栽培は、飼料自給率を上げるだけではなく、③米づくり農家にとってプラスになりそうね。」

たろう：「うん。それに、④エコフィードという取り組みも行われているんだ。フィードというのは英語で『飼料』の意味だよ。資料5はエコフィードに関するものだね。」

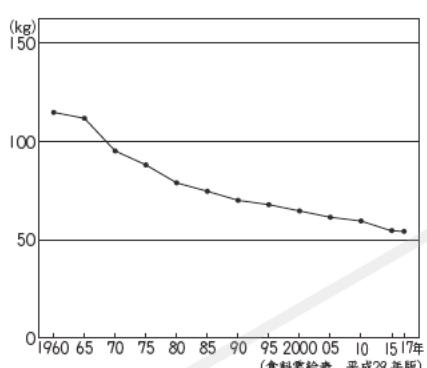
はなこ：「なるほど。食料自給率を上げるためにさまざまふうをしているのね。」

### 資料3 飼料用米の生産量と生産面積の変化

	2008年	2010年	2012年	2014年	2016年
面積(ha)	1,410	14,883	34,525	33,881	91,169
生産量(t)	8,020	68,011	166,537	186,564	481,468

(農林水産省調べ)

### 資料4 日本人1人1年当たりの米の消費量の変化



### 資料5



- (3) 下線部②について、資料3から、2008年から2016年にかけて、飼料用米の田の面積は約65倍、生産量は約□倍に増えていることがわかります。□にあてはまる数字を、次のア～エから1つ選びなさい。

ア 6 イ 60 ウ 80 エ 600 ( )

- (4) 下線部③について、米づくり農家の人たちにとってプラスになると考えられることを、資料4をふまえて1つ答えましょう。

( )

- (5) 下線部④について、エコフィードには、食料自給率を上げるほかにどのようなよい点がありますか、資料5を参考にして説明しましょう。

( )

**解答のヒント** 空らんをうめながら考えてみましょう。

- (1) 日本の( )自給率が低い点がどのようなえいきょうをあたえていますか。
- (2) もし、( )でどうもろこしが不作になってしまったら、日本はどうなるでしょう。
- (4) 米の年間( )量が減ると、本来なら米づくりを続けることは難しくなりますね。
- (5) ごみになってしまうはずの食品残さが、( )に生まれ変わっていることがわかります。